

E V E N T R E P O R T

分子研シンポジウム2019

担当教員 2019年度担当教員
総合研究大学院大学 物理科学研究科 機能分子科学専攻 准教授 西村勝之

令和元年6月7日に岡崎コンファレンスセンター小会議室において、分子研シンポジウム2019を開催しました。本シンポジウムは、分子研オープンキャンパス前日の開催が恒例となっており、オープンキャンパス参加者、所内の学生、研究者にとって、計算・電子・材料・生物・触媒などの各分野でご活躍の分子研OB・OGの先生方のご講演を拝聴できる絶好の機会となっています。分子科学研究所の主要な行事の一つとして、平成19年から始まり、本年は13回目の開催になりました。

今年度、分子研シンポジウムでご講演頂いた先生方のご芳名と講

演題目は以下の通りです。(講演順に記載) 中川剛志先生(九州大学大学院 准教授)「表面磁気秩序への分子吸着の影響」、東林修平先生(慶応義塾大学 准教授)「三次元ヘテロπ電子系分子の創製」、上野隆史先生(東京工業大学大学院 教授)「巨大タンパク質による錯体化学への挑戦」、木村真一先生(大阪大学大学院 教授)「光と電子で探る物質の機能性の起源」。参加者は、42名でした。当日は、所内からもご参加頂き、小会議室はほぼ満席となりました。講演では、研究のお話に加え、各講師の先生と分子研との関わりが丁寧に紹介されました。随所で分子研や総

研大への愛着が感じられ、私達にとっても大変励まされる内容でした。講演会の後は、中会議室に移動し、懇親会を行いました。ご講演頂いた先生、所外参加者、所内教員、学生が交流する貴重な機会となりました。

今回のシンポジウムを通じて参加者の皆さんには、分子科学の多様性と共に、その基礎を支える分子研の存在を感じて頂けたものと思います。お忙しい中、ご講演頂いた講師の先生方、ご協力頂いたPIの先生方、スタッフの方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

分子研オープンキャンパス2019

担当教員 2019年度担当教員
総合研究大学院大学 物理科学研究科 構造分子科学専攻 准教授 古賀信康

令和元年6月8日(土)、岡崎コンファレンスセンター中会議室ならびに明大寺地区、山手地区の各研究室において、分子研オープンキャンパスを開催しました。本事業は、他大学の学部学生、大学院生、若手研究者らに、分子研の研究環境や設備、大学院教育システム、研究者養成活動を紹介し、分子研

や総研大への理解を深めていただくことを目的として、毎年、初夏の候に実施されています。

はじめに、岡本総主幹、江原教授より、分子研ならびに総研大の概要をご説明いただきました。続いて、昼食を取りながら、研究室紹介(西村G、加藤(晃)G、小林G、山本G、楳山G、秋山G、杉本G、

古賀G(発表順))を行いました。最後に、筆者がオープンキャンパスの概要を説明し、参加者の皆さまには、16時まで、明大寺・山手の両地区の公開研究室を自由に訪問、見学いただきました。

本年度の参加者は63名であり、その内訳は、学部学生42名、大学院生12名、大学教員等6名、民間

E V E N T R E P O R T

企業3名でした。分子研OB・OGからの紹介による参加者に加え、分子研に併設されている総研大二専攻の大学院受験を念頭に、研究室訪問をしている参加者が多くみられました。実際、構造分子科学専攻ならびに機能分子科学専攻では、5年一貫博士課程の受験者数が増加し続けています。自由に研究室を訪問・見学でき、指導教員やグループメンバーと歓談できる本事業は、分子研に併設されてい

る総研大二専攻への入学を考えている学生にとって、大変有意義な機会になっているように思います。

本事業にご協力くださいました

関係者の皆様に、この場をお借りいたしまして、深く御礼申し上げます。



受賞者の声

鬼頭 俊介

(物質分子科学研究領域 電子物性研究部門 中村グループ (現: 横山グループ) 特別共同利用研究員)

2019年 日本物理学会第74回年次大会 学生優秀発表賞(領域8)
および第33回先端技術大賞 ニッポン放送賞

この度、「2019年 日本物理学会第74回年次大会 学生優秀発表賞(領域8)」及び「第33回先端技術大賞 ニッポン放送賞」を受賞させて頂くことができ、大変光栄に存じます。前者は日本物理学会 領域8(強相関電子系)における記念すべき第1回目の学生優秀発表賞であり、受賞題目は「 $\text{Cu}_{0.33}\text{TiSe}_2$ におけるCuイオンの秩序化に伴うハニカム格子型電荷秩序の形成」です。この研究では、歴史ある層状化合物 TiSe_2 においてCuイオンを層間にインターカレーションすることで、新たな電荷秩序相を

実現することに成功しました。後者はフジサンケイビジネスアイが「理工系学生の独創性と創造性をはぐくみ、研究への意欲を高める」ことを目的に1986年に創設された賞で、受賞題目は「放射光X線を用いた物質の軌道状態の直接観測手法の確立～軌道自由度に関する物性研究の新展開～」です。この研究は、放射光X線と我々が新たに提案する“コア差フーリエ合成法”による電子密度解析手法を組み合わせることで、電子状態を支配する軌道状態(電子の空間分布状態)の直接観測に成功したものであ



り、物性研究のブレイクスルーと期待しております。今後も本成果を発展させて物性科学分野に貢献できるよう研究活動に邁進いたします。

最後に、両受賞に関する研究は共に分子研・特別共同利用研究員として遂行したテーマであり、指導教員の名古屋大学・澤博先生、分子研・中村敏和先生を始め共同研究者の皆様に深く感謝申し上げます。